

駒ヶ根訓練所 体験入隊



最初に国際社会における JICA の目的とその活動についてのお話を伺い、その後、開発途上国の現状とSDGsについて学びました。



訓練所内は語学訓練施設だけでなく、体育館や調理施設もあり、様々な訓練に対応できるようになっていました。青年海外協力隊の 50 年以上の歴史を紹介する展示コーナーもありました。

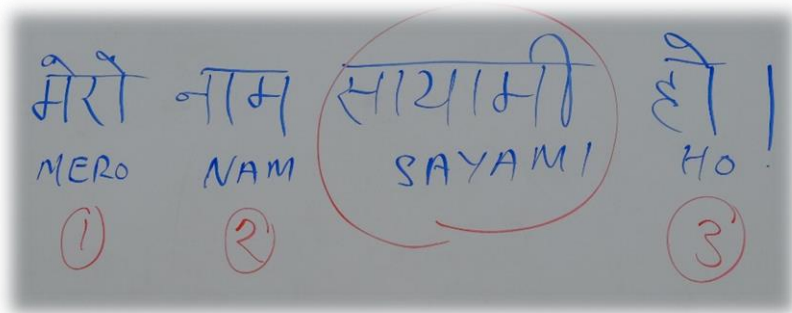


約 70 日間の合宿形式の訓練を行うため、宿泊施設もありました。仲間と協力しながら訓練を行う様子が想像できました。



訓練所自慢の食堂でエジプト料理を食べることができました。初めて食べる料理でしたが、とてもおいしかったです。これが 500 円で食べられることに驚きました。





ネパール語の授業を受けてきました。驚いたことは、ネパール語の先生はネパール語を全く教えてくれなかったことです。『ここに書いてあることを想像してごらん』、『日本語に訳さないで、ネパール語で言ってごらん』というだけでした。しかし、私たちはその後、このネパール語の意味がわかるようになったことにとっても驚きました。

日本人はみんなネパール語を知っているはずだと先生は言いました。例として『Narak』、『Sewa』というネパール語をを教えてもらいました。発音も意味も全く同じということでした。遠く離れた国の言葉がなぜ共通して使われているのか？それは仏教とかかわっているからだそうです。



将来、青年海外協力隊員になりたい人、国際協力分野で活躍したい人はもちろん、そうでない人にとってもとても楽しい1日になったと思います。日本に2か所しかない施設を気軽に訪れることができる長野県の高校生はとても幸せです。他県の人から『長野県の生徒ばかりずい！』と言われたこともあります。

町中で外国の人を見かけることが珍しくない世の中になりました。東京のコンビニ、ファミレス、ファーストフードのアルバイトの人々はほとんど外国人で、数か国語が話せる人がとても重宝されています。

地方でも否が応でも国際化がますます進むことは間違いありません。高校生うちにこのような施設で海外の言語、文化、風習、宗教について触れる機会を持つことはとても大切です。多様性を認め合う社会づくりの一翼を担う存在になってほしいと思います。



来年度も企画しますので、興味ある人はぜひ参加してください。